

自然と身につくプレゼンテーションの力

ライフデザイン学科（以下、ライフ）では、プレゼンテーション系科目が必修科目で、1年生の前期に全員が受講します。ライフでは、2年間で卒業する際に、大きな武器となるのがプレゼン力だと考えています。就職に際して、筆記試験のない企業はありますが、面接のない企業はありません。多くの企業が「学生にはコミュニケーション力が不足している」と考えています。そこで、ライフデザイン学科（以下、ライフ）では、社会人となったときに大きな武器となるのがプレゼンテーションの力だと考え、プレゼン系の科目を、入学してすぐに全員が受講するようにしています。しかし、ライフが目指すのは、プレゼンのスペシャリストではありません。与えられたテーマについて、与えられた時間で、自分の意見を伝えることができるプレゼン力です。苦手な人は苦手克服を、得意な人はさらに力を伸ばすことができるように、ゲーム感覚で自然にプレゼン力が備わる。それが、ライフのプレゼン系授業の特色で、学生の希望がかなう就職の実現に大きく貢献しています。



実践的なプレゼン大会

ライフのプレゼン系授業の特色の一つがプレゼン大会です。毎年、公共性の高い団体や企業から地域や実社会に関わるテーマをいただき、そのテーマに対し各クラスを勝ち抜いたチームがプレゼンを行います。このプレゼン大会には特色があります。①テーマを提案いただいた団体や企業に対し出向いて取材を行う②プレゼン大会の審査は担当教員でなく、団体や企業の担当者が行うということです。先日行われた平成27年度プレゼン大会のテーマは「京都市動物園の集客力アップ企画」で、審査委員長は京都市の副市長。審査員は京都市動物園の職員、元テレビ局のプロデューサー、フリーアナウンサーという顔ぶれでした。このプレゼン大会という舞台を経験することで、学生のプレゼン力が飛躍的にアップします。

